文部科学省平成 19 年度専門職大学院等教育推進プログラム

鳴門教育大学専門職大学院ＧＰシンポジム
開　催　報　告

教育の専門職に求められる力量をどのように育てるか
―既設大学院と教職大学院の活性化にむけて―

今日，教員の資質が社会的に問われている。また，全国の教員養成系の学部・大学は，教職大学院の開設をきっかけに，学部レベルとは質を異にする大学院教育の在り方を模索し始めた。本学でも，既設大学院の定員が新設教職大学院の定員を大幅に上回ると言う現状の下，既設大学院の活性化を図り，新設教職大学院と共に「教育の専門職」養成の責任を果たすことが求められている。

本シンポジウムでは，①鳴門教育大学がこれまで展開してきた必修科目「教育実践研究」を振り返り，②本年度より始まる大学院版「コアカリキュラム」の可能性を検討すると同時に，③大学院レベルではどのような力量に焦点を置いて「教育の専門職」を養成するべきかについて，幅広く議論した。

【日　　時】　平成 20 年 3 月 15 日（土）　13:00～17:30

【場　　所】　阿波観光ホテル　3 階　（ロイヤルパレス）

【参 加 者】　60 名　（教育関係者・大学関係者 13 名, 本学教職員 24 名, 大学院生 23 名）

多数のご参加をいただき, ありがとうございました。

●13：00　開会

主催者代表挨拶

鳴門教育大学長　　高橋　　啓

総合司会

鳴門教育大学

自然系（数学）教育講座　教授　　松岡　隆

●13:10

第１部　本学の取組紹介（約 20 分）

①『鳴門教育大学大学院コアカリキュラム構想』

報告者　鳴門教育大学　社会系教育講座　准教授　　草原　和博

●13：30

② 試行プログラムの事例報告（約 30 分）

１）『主体的に社会認識を形成する
社会科学習の展開と構想』

報告者

鳴門教育大学

社会系教育講座　准教授　梅津　正美

社会系コース　Ｍ１　　河田　知憲

社会系コース　Ｍ１　　古市　和臣

２）『社会認識形成を支援する
映像メディア教材の開発と試行』

報告者

鳴門教育大学

社会系教育講座　准教授　草原　　和博

社会系コース　Ｍ２　　鳥井　　千寿子

社会系コース　Ｍ２　　佐々木　美緒

３）『目標・指導・評価の一体化を図った
英語授業』

報告者
鳴門教育大学
言語系（英語）教育講座
准教授　山森　直人
言語系コース　Ｍ２　田村　千恵子

４）『音楽によるコミュニケーションの成立を
目指した音楽授業のくふう』

報告者
鳴門教育大学
芸術系（音楽）教育講座
准教授　森　正
芸術系コース　Ｍ１　渡邊　直宣

●14:00～15:20（約 80 分）
基調講演「教育の専門職に求められる力量をどのように育てるか」
講師　十文字学園女子大学　特任教授　横須賀　薫

●15:30～17:10
パネルディスカッション（約 40 分）

司会

鳴門教育大学　学長補佐　　山下　一夫

パネリスト

兵庫教育大学　教授　　渡邊　満

パネリスト

上越教育大学　教授　　増井　三夫

パネリスト

九州大学　教授　　八尾坂　修

パネリスト

鳴門教育大学　学長補佐　　西園　芳信

●17:00～17:25

フロアーとの質疑応答（約 15 分）

●17:25～17:30　閉会
　催者代表挨拶
　鳴門教育大学　理事　　田中雄三

専門職ＧＰシンポジウムの成果と展望

社会系教育講座　准教授　　草原　和博

平成 20 年 3 月 15 日，文部科学省専門職大学院等教育推進プログラム『教育の専門職養成のためのコアカリキュラム』の中間まとめとして，専門職 GP シンポジウムを開催した。テーマは「教育の専門職に求められる力量をどのように育てるかー既設大学院と教職大学院の活性化にむけてー」。本シンポジウムには，中四国を中心に，教育関係者約 60 名の参加者を得ることができた。

まずシンポジウムの冒頭で，大学院コアカリキュラム運営委員会を代表して，草原和博准教授が鳴門教育大学の取組を報告した。取組の特色として，①教育課題を追求する必修コアカリキュラム（教育実践フィールド研究と広領域コア科目）の開設，②教育課題に対する構造的複眼的なアプローチと専門的知見の応用，③多様なキャリアをもつ大学院生と協力校教員による課題解決に向けた協働的研究，の 3 点を挙げて，その具体策を概説した。引き続いて，本構想を来年度から本格稼働させるための「試行プログラム」の成果が報告された。いずれの報告でも，学び手＝院生の眼差しとことばで，学びの経過と意義がプレゼンテーションされた。試行プログラムのテーマは，以下の 4 つである。

○ 古市和臣・河田知憲「主体的に社会認識を形成する社会科学習の展開と構想」
○ 鳥井千寿子・佐々木美緒「社会認識形成を支援する映像メディア教材の開発と試行」
○ 田村千恵子「目標・指導・評価の一体化をはかった英語授業」
○ 渡邉直宣「音楽によるコミュニケーションの成立をめざした音楽授業の工夫」

本学の取組紹介を受けて，前宮城教育大学長の横須賀薫氏が基調講演を行った。氏は，「教育の専門職に求められる力量をどのように育てるか」をテーマに，教職大学院が設立される経緯，制度設計の当事者としての問題意識，ならびに教職大学院で養成したい資質・能力などを解説した。とくに教職大学院で要請される「実習」の性格と指導力育成の方法論（臨床経験に係わる体系的な知識の伝達と，臨床経験を振り返る省察的な学習）について，詳細な説明が行われた。

パネルディスカッションでは，本学・山下一夫学長補佐の司会のもと，大学院教育の論点・争点と今後の方策をめぐって，意見が交わされた。

九州大学の八尾坂修教授は，教職大学院が構想された背景と制度設計の骨格を概観するとともに，米国の教員養成制度との対比を交えて，我が国の「教育の専門職」養成の課題を指摘した。上

越教育大学の増井三夫教授は，「岐路に立つ新教育大学」という視点から，修了生に対するアンケートの結果を分析し，新教育大学の意義を総括するとともに，三大学のさらなる連携の可能性を提起した。兵庫教育大学の渡邊満教授は，教育実践高度化専攻「心の教育実践コース」における FD の成果を紹介し，授業評価の結果と，そこから読みとれる院生の期待する授業像を展望した。鳴門教育大学の西園芳信教授は，学部から大学院まで 6 カ年を射程に収めた本学コアカリキュラムの段階性と，既設－教職大学院の相違を整理するとともに，既設大学院の活性化には「教科内容学」の確立が欠かせないことを説いた。

以上四氏の提言をたたき台に，引き続き討論が展開された。フロアからは，「教育委員会」の研修と「教職大学院」の授業の本質的な違いについて，質問が投げかけられた。質疑を通じて，議論は深まりを見せた。

本シンポジウムを通じて，おおよそ以下の 3 点が確認された。①既設大学院の改革には，教科専門担当者のコアカリキュラム（教育実践フィールド研究）への関わり方が鍵となること。②大学院の教育理念に沿って，教科専門の教育内容を再構成していく視点と方法が問われていること。③鳴門・兵庫・上越の三大学は，これまでの実績にもとづいて①②の論点について積極的に発信していく責任があること。なお，本学の取組に対して，講演者及びシンポジストは，軒並み高い評価を与えていたことを付記しておく。

本シンポジウムを契機にして，「教育の専門職」養成のモデルを確立するとともに，その効果を共同で検証してゆくフォーラムが形成されることを期待したい。

シンポジウムの資料の送付を希望される方は、
送付先の住所・氏名・電話番号を **e-mail** でご連絡下さい。

e-mail　：　gpsenmon@jim.naruto-u.ac.jp